

# 令和3年度自己評価結果公表シート

作成 幼保連携型認定こども園 常磐会短期大学付属いずみがおか幼稚園

## 1、本園の教育目標

温かく安らぐ生活の中で、豊かな感性、好奇心、思考力の基礎を培う

【望ましい子ども像】

- ・健康な生活の仕方を身につけ、自分のことを自分でしようとする子ども
- ・自分を大切に、友達も大切にする子ども
- ・ちがいを受け入れ共に育ちあう子ども
- ・よく見、よく聞き、よく考える子ども
- ・心をうごかし、やってみようとする子ども
- ・感じたことを豊かに表現し、自分らしくのびのび生活する子ども

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・創立 50 周年という節目を迎える。創立からの歴史に触れる中で大切にしてきた理念・いずみがおか「らしさ」を再認識することで「いずみがおか精神」を教職員・保護者と共に共有する。
- ・今まで果たしてきた幼稚園の役割と、現代社会に求められる幼保連携型認定こども園としての役割を再考、改善・改新につなげ時代に合った「こどもがまんなか」となるいずみがおかの教育・保育・子育て支援を明日につなげる。

### (教育及び保育の内容の概要)

- ・0歳児 快適に過ごせる環境と、園と家庭との一貫した生活のリズムの中で情緒の安定と感覚の働きを豊かにする。
- ・1歳児 自我の芽生え、人への信頼感をはぐくむ。
- ・2歳児 食事・睡眠・排泄・着脱など自分でしようとする意欲を育てる。
- ・3歳児 幼稚園の環境に慣れ、気の合う友達の中で、自分の思いを出しながら楽しく過ごす。(2歳児からの進級児)  
幼稚園の環境に慣れ、好きな遊びを見つけて楽しく過ごせるようにする。(新入園児)
- ・4歳児 友達と思いを伝えあって遊ぶ楽しさを味わえるようにする。  
自分の好きな遊びを見つけて、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- ・5歳児 友達と心や力を合わせて熱中し、充実感が味わえるようにする。

### 【研究成果】

『これまでのいずみがおかとこれからのいずみがおか

～昭和・平成・令和 その後もずっとつながる「こどもがまんなか」の教育・保育～』

#### (1)「幼保連携型認定こども園としての保育・教育」

- ①創立 50 周年記念誌を作成する際、当時の記録や資料、写真等に触れる中で「恵まれた自然の中で四季を感じる生活や活動」「親子のふれ合い」「一人一人のよさ」「一人一人が活かされる保育の工夫」を大切にしてきたことを改めて感じた。温故知新で先人に習い現代に求められる教育・保育を考えていく良い機会となった。
- ②幼保連携型認定こども園として、園児の生活時間・生活様式を考慮した個別配慮をすると共に、保護者の意向や悩み不安に対する個別の支援も行い「こどもがまんなか」で安心して過ごせるようにしてきた。
- ③教職員間で話をする機会を大切にすることで報告・連絡がスムーズになり共通理解しながら保育や初期対応、保護者対応にあたれた。「支え合う」チーム力、「絆」が深まった。
- ④三原台地区が「まちびらき 50 周年」を迎えた。地域周年行事はコロナの影響で中止となったが記念誌を作成するに当たり幼稚園は地域の方々に支えられていることを改めて感じた。

## (2)「園児の生活の充実として」

- ① 昨年に引き続き、コロナの感染拡大状況を鑑みながら生活・遊び・行事において「最大限できること」を教職員で話し合い、柔軟に対応していくことで子ども、保護者と共に生活を楽しむことが出来た。
- ② いろいろな人に、あるがままの姿を受け止められたことで、安心して過ごし「自分の気持ちを大切にする」中で、「自分以外の人の気持ち」にも気づき共に生活する姿につながった。
- ③ 園内の畑で野菜栽培、園庭の実りの収穫といった自然との関わりや収穫したものから、その生長や食に関するの興味、数への関心を広げていった。
- ④ ポートフォリオや学年だより、ホームページの中で子どもの姿や子どもつぶやきを紹介した。子どもの「見え方」「感じ方」「表現の仕方」を感じ、子どもらしさ、子どもなりに考えていることに気づいてもらえる良い機会となった。
- ⑤ 日々の終礼で子どもの体調や怪我、ヒヤリ・ハットの報告を行い、事故を未然に防げるよう意識化した。誤食・誤飲予防として給食メニューや調理方法を見直し、怪我防止として園内遊具・環境の点検を業者にも依頼し安全管理を行った。
- ⑥ 子ども達が考えた「幼稚園の 50 歳の誕生会」を準備し楽しむことが出来た。歴代園長先生方にも参加して頂きいずみがおか幼稚園の歴史を知れた貴重な 1 日となった。
- ⑦ 園内教育・保育研究をビデオ記録にて行う。それぞれのクラスの現状や担任の思い、クラスの課題について理解した上で、良かったところや課題に対するフィードバックを行い教育・保育のヒントが得られる場、教育・保育に自信をもち新たな気持ちで子どもと向き合える気持ちになる場となった。記録をまとめ研究誌「あしあとXXV」を刊行。

## 3、評価項目の達成及び取組状況

- (1) 園関係者の新型コロナウイルス感染が確認され、学級閉鎖や学年閉鎖となる期間もあった。  
その間、閉鎖該当クラスであっても保護者が就労の為、休むことができなかった 2 号認定こども・3 号認定こどもを別室で受入れ、就労家庭の支援を行った。
- (2) 新型コロナウイルス感染者数の動向に合わせ感染予防策を講じた上で行事や教育活動での制限を緩和した。  
多様な人とのかかわりや体験が出来た。（保護者参加人数の見直し・園外保育実施・外部講師を迎えお話の会や小学校就学前の出前授業等）
- (3) 新型コロナウイルス感染者が減少したことから、在園児限定で土曜日園庭解放を再開、未就園児クラス、課外授業の小学生の立ち入りの再開を行った。
- (4) ホームページ保護者サイトに写真や動画を多く取り入れ、減少した保育参加や参観に対する不安への軽減となった。また、本園の教育理念をいろいろな人に知ってもらえる良い機会となったことで期中入園児の増加にもつながった。
- (5) 令和3年度からの定員人数が変更となった。  
1 号認定子ども55名 2 号認定子ども100名 3 号認定子ども60名 合計215名とし、ひとり一人の姿に応じた丁寧なかかわりをより意識した保育に力を入れられた。（インクルーシブ保育）
- (6) 絵本作家さいとう のぶ氏の紙芝居「ネルコハソダツ ネルコハソダツ・・・」の作成にかかわった。

## 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらの生活は 3 年目となるが、乳幼児の過ごす施設であることから、当初から今もなお、感性対策消毒を徹底して行われているからこそ感染者の数が抑えられているように思う。
- ・給食提供時の誤飲誤食予防について管理栄養士、看護師、保育教諭で給食会議が行われ、食材選びや、提供方法（切り方や大きさ）において十分配慮されていることがわかった。
- ・個別の把握と対応を丁寧に行われている。大変なことであるが安心して子どもを預けられる。

## 5、今後取り組むべき課題(令和4年度計画)

課 題	具体的な取り組み方法
【教育課題】 『みんなちがって みんないい 子ども・保護者・保育教諭 認め合いの集団をめざす』	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会に求められる幼保連携型認定こども園として、在園児だけでなく地域に向けての子育て支援や子育て応援、保護者支援を行う。</li><li>・教職員が「安心して楽しく過ごせる」「自信を持ち保育ができる」園環境を考える。また、園内研修を積極的に行うことで共に学び合い自己開示できる集団、質の高い教育・保育を目指す。</li><li>・終礼で日々の振り返り、報告・連絡・相談を行い、子どもや保護者の情報を共有し皆で経過観察・対応をしていく。</li></ul>
【研究課題】 『共に感じることから始まる子ども理解 子どもと創る生活』	<ul style="list-style-type: none"><li>・子ども一人一人を多数の大人で見守り関わることで、その子どももの「よさ」を引き出しフィードバックしていくことで自己肯定感を高め、自分を好きになることで意欲の向上につなげる。</li><li>・地域や園内の自然にかかわり、四季を感じたり、自然物の変化、成長に気付いたりしながら多様なものとふれあい、興味や関心を深める。</li></ul>

## 6、学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルスの感染拡大状況の情報共有が地域、三原台中学校区連絡会とできたことで、現況や正しい情報提供につながり保護者の安心にもつながった。</li><li>・地域行事においては、それぞれの施設の状況に応じて無理のない程度で出来る範囲での参加をしてもらえた事で少しずつではあるが交流する場面が持てた事はよかった。</li><li>・家庭で過ごす未就園児対象に園開放や園庭開放、一時預かり保育の受入れを積極的に行うことで子育て支援がつながりありがたい。</li><li>・地域公園整備工事に伴い広範囲・長時間の工事が行われている。車で送迎する際の速度や、道路の通行の仕方(出来るだけ端を通り接触回避)を意識してほしいと指導を受けた。</li></ul>
--

7、財務状況 公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。